特集

日本遺産のまち益田の歩き方

JAPAN HERITAGE
日本遺産

日本遺産のまち益田を歩いてみよう

今から800～400年前の中世という時代の益田をテーマとしたストーリー「中世日本の傑作　益田を味わう―地方の時代に輝き再び―」が、令和2年6月、日本遺産に認定されました。

日本遺産は、複数の構成文化財から成り立っていて、それらから浮かび上がる地域の歴史的な魅力や特色を体験することがその楽しみ方です。

本特集では、市内の構成文化財を訪ね、益田の歴史的な魅力と特色を体験できるモデルコースを紹介します。ぜひ、参考にしてみてください。

なお、それぞれの構成文化財については、広報ますだ令和2年9月号から連載している「日本遺産のまち益田の歩き方」で詳しく紹介しています。こちらもぜひご覧ください。

中世港町エリア

①櫛代賀姫神社

最初に訪ねたいのは、益田川河口の東側に位置する櫛代賀姫神社です。益田氏も崇敬し、本殿の一部には1584年に益田家が再建した際の部材が使われています。

もう一つの見どころは、境内からの益田平野の眺望です。ここから中世益田の繁栄の背景となった地形を一望することができます。

中世の益田平野は、高津川が益田川に合流するように流れていたことと砂州の発達により、湖のようになっていました。この地形は日本海の強風と荒波を避ける天然の良港といえ、沿岸に多くの港町が成立し、中世の益田は交易により繁栄しました。

《滞在時間》約20分
《駐車場》あり
バス：石見交通バス久城線〈久城行〉
久城バス停から徒歩5分
自転車：益田駅から約20分

②福王寺、③中須東原遺跡

久城の台地を降りて、福王寺を訪ねましょう。境内の巨大石造物は、瀬戸内海や日本海を通じた交易を物語ります。墓地に向かうと砂丘になっていて、この砂丘が強風から港町を守っていました。砂丘の南側が中須東原遺跡で、中世の港町の構造や交易の様子を伝える全国的にも希有な遺跡です。

《滞在時間》約30分
《駐車場》中須東原遺跡にあります
自転車：櫛代賀姫神社から約5分

④中世今市遺跡、⑤大喜庵

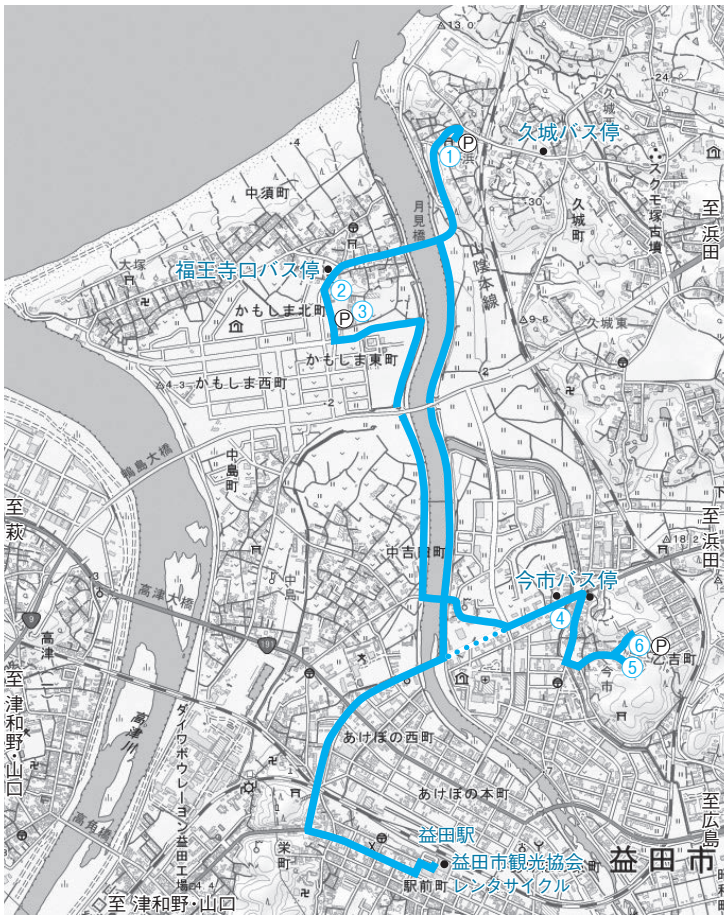
中世今市遺跡は、今市川沿いに成立した港町の遺跡です。現在の町並みからも、短冊状の地割や、川に降りるための道の痕跡など、中世の港町の様子を知ることができます。大喜庵の前身の東光寺は、雪舟が晩年を過ごした寺です。

《滞在時間》約30分
《駐車場》⑥市立雪舟の郷記念館の駐車場をご利用ください
自転車：中須東原遺跡から約10分
益田駅から約15分

★中世港町コース

①櫛代賀姫神社→②福王寺→③中須東原遺跡→④中世今市遺跡→⑤大喜庵

《所要時間》益田駅から
車：約2時間
自転車：約2時間30分



中世港町エリア　サイクリングコース　Ⓟ駐車場

中世城下エリア

このエリアは歩いてまわることができます。

《益田駅からの所要時間》
車：約5分
自転車：約15分
バス：約10分（1時間に4～5本）

①七尾城跡

益田氏の本城です。本丸などから城下を眺めることができます。自然地形を活かした堅固な山城のため、ご自分の体力にあわせて登りましょう。

《滞在時間》約50分

②妙義寺、③暁音寺、④右田本店酒蔵

妙義寺から北北東方向へ伸びる道と、七尾城跡と三宅御土居跡をつなぐ道は、中世城下の基準線と考えられています。暁音寺前の交差点はかつて「鍵曲り」という特徴的な構造をしていました。現在は、路面標示にその痕跡をとどめています。

上市から下市の弧を描くような道と右田本店酒蔵は、中世の市が益田川に沿って立っていたことの名残です。

《滞在時間》約30分

⑤三宅御土居跡

益田氏の館の跡です。そのすごさを体感できるのが土塁で、東側土塁の北側からだと大きさがよくわかります。そこから東に向かうと水路があります。この水路は、萬福寺のあたりで益田川から取水し、三宅御土居跡北側の地域を灌漑し、乙吉や今市まで続きます。益田氏が農業用水を押さえる場所に館を構えていたことがわかります。

《滞在時間》約30分

⑥萬福寺

1374年創建の本堂、雪舟が築いた庭園、その他さまざまな中世以来の文化財を所蔵する、中世益田の粋を集めたような寺院です。

《滞在時間》約30分

⑦染羽天石勝神社

益田氏が「地域根本大社」として大切にした神社で、本殿は1583年に再建されたものです。

《滞在時間》約20分

中世城下エリア　中世寺社コース　中世城下コース　中世堪能コース　Ⓟ駐車場

【レンタサイクル・観光案内】
スポーツタイプ：3時間1,000円～　1日2,000円～　※保証料1,000円
シティータイプ：3時間300円（電動自転車は500円）※以後1時間ごとに100円
利用時間　9：00～17：00　　定休日　年末年始
申 問 一般社団法人益田市観光協会（駅前町17-2　益田駅前ビルEAGA1階）
☎22-7120　FAX 23-1232　✉info2@masudashi.com

⑧医光寺

医光寺を訪れたら、まずは入口の総門を見てみましょう。かつて七尾城の大手門であったとされる堂々とした門です。雪舟が築いた庭園はもちろん、開山堂にある仏像なども必見です。

《滞在時間》約30分

⑥萬福寺・⑧医光寺
《拝観料》一般500円、高校生300円
中学生以下無料
※団体割引あり
《受付時間》8：30～17：30
※冬期は17：00まで

★中世寺社コース・約2時間
中世益田の文化を象徴する寺社をまわります。中世の建造物のほか、2つの雪舟庭園があります。
⑥萬福寺→⑦染羽天石勝神社→⑧医光寺

★中世城下コース・約3～4時間
中世城下の地形を歩いて理解するコースです。⑥萬福寺と⑧医光寺をじっくり拝観する場合の所要時間は約4時間です。
②妙義寺→③暁音寺→④右田本店酒蔵→⑤三宅御土居跡→⑥萬福寺→⑦染羽天石勝神社→⑧医光寺

★中世堪能コース・約4～5時間
中世城下コースの最初に①七尾城跡に登ります。各構成文化財もじっくり拝観・見学しましょう。

美都エリア

美都エリアは、鎌倉時代後期に益田氏が本拠を置いた東仙道地区と、銅や銀を産出して中世益田の交易を支えた都茂鉱山跡のある都茂地区、そして、道の駅や温泉がある二川地区に分けることができます。

①神宝山八幡宮と東仙道の遺跡群

鎌倉時代後期の益田氏は東仙道に本拠を置いていたことがわかっています。東仙道には官衙（古代国家の役所）があったようで、東仙道公民館周辺にその遺跡があります。国衙（古代国家の国支配の役所）の役人を出自とする益田氏にとって、拠点としやすかったのでしょう。小原からの出口のあたりに当時の益田氏の館があったと考えられています。

神宝山八幡宮は、益田氏が大切にした神社で、氏神・御神本大明神も合祀されています。

《滞在時間》約1時間

②大年ノ元遺跡、③都茂鉱山跡

都茂鉱山は、881年に発見され、1987年に閉山するまで、1千年以上の歴史を誇ります。地元の都茂地区直進会が鉱山跡の管理をまかされていて、活用に取組んでいます。間歩や坑道の跡、鉱山で働く人々が信仰した神社跡などを見学できます。

都茂鉱山が中世にも稼働していたことを証明するのが大年ノ元遺跡で、中世に銅精錬が行われていました。

《滞在時間》約1時間

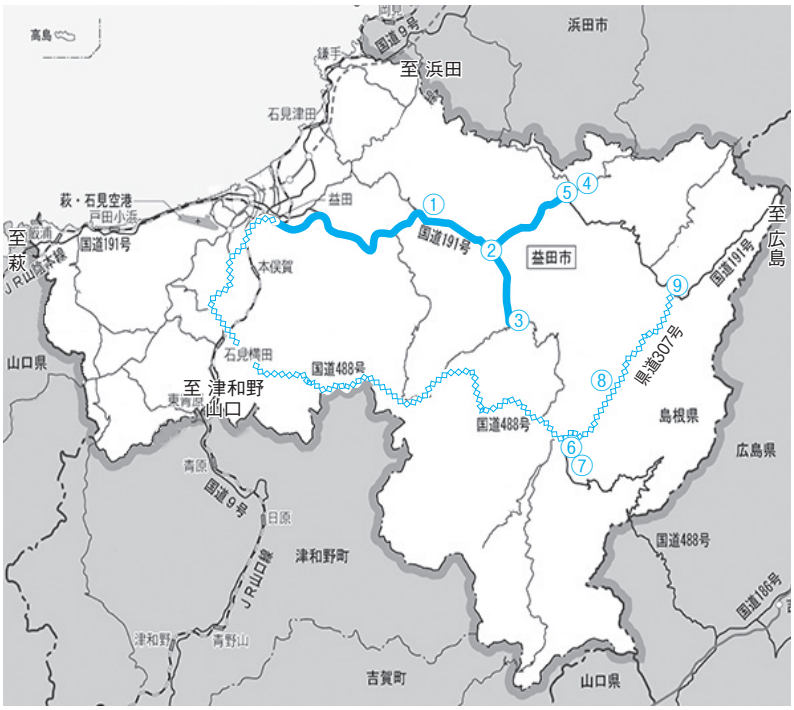
★中世美都コース

①神宝山八幡宮と東仙道の遺跡群→②大年ノ元遺跡→③都茂鉱山跡→④美都温泉「湯元館」→⑤道の駅 サンエイト美都

《所要時間》益田駅から・入浴含む

車：約4時間

自転車：約8時間



美都エリアおよび匹見エリア

中世美都コース　◇◇◇◇◇ 中世匹見コース

【都茂鉱山のご案内】

都茂地区直進会　☎52-2533（常磐屋）

※対応できない場合もありますので、事前に連絡をお願いします。

匹見エリア

匹見エリアでは、山々の豊かさと匹見川の美しさを体験できます。温泉や道の駅もあります。

⑥ウッドパーク（匹見上公民館）

ウッドパークには、文化財コーナーのほか、匹見の歴史に関する書籍、木工製品や山間地産業に使われた道具、匹見の森に暮らす動物のはく製などが展示されており、匹見やその山間地産業の歴史を学ぶことができます。

《滞在時間》約30分～1時間

⑧表匹見峡

匹見の渓谷美・匹見峡は、前、表、裏、奥の4カ所に分かれています。表匹見峡は、県道307号を匹見の中心部から道の駅匹見峡に向かう途中にあります。トンネルに入らずに、旧道を進みましょう。裏匹見峡、奥匹見峡は、徒歩での散策となります。

《滞在時間》前匹見峡：約10分

表匹見峡：約30分

★中世匹見コース

⑥ウッドパーク→⑦匹見峡温泉やすらぎの湯→⑧表匹見峡→⑨道の駅 匹見峡

《所要時間》益田駅から・入浴含む

車：約4時間

自転車：約8時間

バス（⑥⑦のみ）：約4時間

④美都温泉「湯元館」
営 8：00～21：00（最終受付20：30）
休 水曜日（祝日の場合は営業）

⑤道の駅 サンエイト美都
営 9：00～19：00
休 火曜日

⑦匹見峡温泉やすらぎの湯
営 11：00～20：00（最終受付19：00）
休 月・火曜日
（祝日の場合は営業、翌平日休み）

⑨道の駅 匹見峡・出合の里みちかわ
営 8：00～17：00
休 1月1日～3日

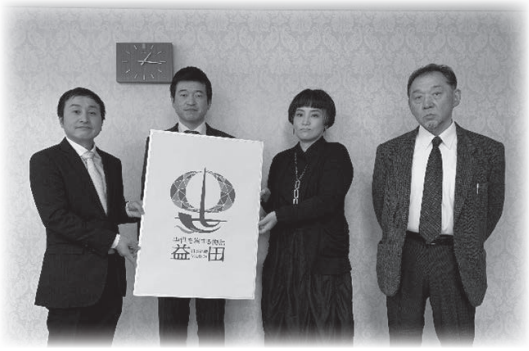
営 営業時間　休 定休日

益田市の日本遺産のロゴマークができました

益田市の日本遺産のロゴマークがコンテストにより決定しました。

選ばれたのは、株式会社フタバのデザイナー・和田好恵さんがデザインしたもので、中世から現代への時の川を旅する舟が表現されています。

和田さんからは、「時と川の流れを意識して作成しました。益田に来られる方々に中世を体験してほしい。」とのコメントをいただきました。



ロゴマーク発表の様子

（右から、株式会社フタバ 平坂代表取締役、和田さん、山本市長、益田の歴史文化を活かした観光拠点づくり実行委員会 右田会長）

中世を旅する物語
益 日本遺産 MASUDA 田

オリジナルロゴマーク（モノクロ版）
カラー版は32ページに掲載しています。

まわって集めよう！雪舟ゆかりの武将カード

好評いただいている武将カードですが、昨年10月に国土交通省の庭園間交流連携促進計画（ガーデンツーリズム）に、益田市など雪舟にゆかりのある6市による「雪舟回廊」が登録されたことを記念し、雪舟と島根、山口にゆかりのある武将カード6枚を発行しました。

益田市の萬福寺、医光寺、市立雪舟の郷記念館、山口市の常栄寺（じょうえいじ）、瑠璃光寺（るりこうじ）資料館、防府市の毛利博物館・毛利氏庭園の6カ所でそれぞれ1枚ずつ、各寺院・施設ゆかりの武将カードを配布しています。

雪舟の足跡や代表作に思いをはせながら、ぜひ集めてみてください。

カードは、益田氏、大内氏、毛利氏の６枚

山口市と防府市のカード配布場所

【問い合わせ先】
益田の歴史文化を活かした観光拠点づくり実行委員会
担当：市文化財課 ☎31・0623